

科目名 Subject Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
保育内容環境 Content of childcare (environment)		2年	前期	火曜日・4時限、5時限
単位数	授業の形態		授業の性格	
1単位	演習		選択 (保育士養成課程必修、教職課程必修(幼稚園教諭二種))	
当該科目の理解を促すために受講することが望まれる科目				
保育内容総論、保育原理				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
保育士養成課程必修科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
高橋登美子	講義棟3階	火曜・水曜・金曜(授業時間外)		授業中に指示します
授業の概要				
保育を行うにあたって重要となる「保育の環境」について学んでいく。また、生活の中で出会う様々な環境にも目を向ける大切さを知ることで身近な環境に気づき、保育技術の習得に繋げていく。				
授業の到達目標				
①領域「環境」の意味を知り、保育者として様々な生活環境について知ることができるようにする。 ②自然環境におけるの事象に目を向け、季節に応じた活動について考えることができるようにする。 ③物的環境に目を向け、数量や図形、そして文字への興味関心に繋がる保育を考えることができるようにする。 ④動植物に対する愛情を持ち、飼育・栽培に関する環境について知ることができるようにする。				
授業の方法				
教科書での知識の習得とともに、テーマを決めた演習活動に取り組む。その中で、必要な知識に結びつく説明と解説をすることで保育技術の習得を目指していく。				
学習の成果				
①領域「環境」の意味を知り、こどもが生活の中で出会う様々な環境に対して適切な援助活動をすることができる。 ②自然環境におけるの事象を知ること、季節に応じた活動について考える、保育活動の計画を立案することができる。 ③物的環境としての身近な数量や図形を知り、また文字への興味も育てながらの数量や図形への興味・関心を引き出す保育者の援助をすることができる。 ④生き物と関わることはどういうことなのかを考え、動植物に対する愛情を持ち、飼育・栽培に関する保育の援助をすることができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス～シラバスの説明、授業内容や調査報告書の課題について、授業の出欠席と遅刻早退・補講について領域「環境」の目指すもの			
第2回目	教科書 第1章 領域「環境」の意味			
第3回目	教科書 第2章 子どもの育ちにかかわる現代の生活環境とその課題～動植物との関わりを学ぶ 教科書 第3章 環境への興味とかかわり方の発達			
第4回目	教科書 第6章 生き物のかかわりにおける子どもの育ち 教科書 第7章 自然・季節のかかわりにおける子どもの育ち～季節に適した保育活動を考える			
第5回目	教科書 第10章 数量・図形への興味と認識の育ち			
第6回目	数量・図形に興味・関心を深めるための教材研究・製作物作成～課題として作成したものを提出(提出に関しては授業内で指示)			

第7回目	教科書 第11章 文字・標識への興味と認識の育ち		
第8回目	文字に対する興味・関心を深めるための教材研究・製作物作成～課題として作成したものを提出(提出に関しては授業内で指示)		
第9回目	実習経験をもとに、領域「環境」について具体化する		
第10回目	教科書 第5章 物とのかかわりにおける子どもの育ち～身近な物=素材を考える		
第11回目	身近な素材を利用した教材研究		
第12回目	教科書 第4章 子どもの活動を引き出す保育環境		
第13回目	教科書 第12章 子どもの環境へのかかわりを促す保育者の役割		
第14回目	人的環境としての「保育者」について、その役割を考える		
第15回目	定期試験の実施～内容の確認と解説、領域「環境」の目指すものの確認		
成績評価の方法と基準			
	評価の領域	割合	評価の基準
	授業参加態度	10%	授業内容に関心を示し、積極的に演習課題に取り組んでいること。
	レポート		
	調査報告書	40%	植物の観察記録、または小動物の飼育記録を作成し、課題として提出する。数量・図形に関する教材研究と文字に関する教材研究、身近な素材を利用した教材研究が保育環境の学びに適した内容であること。
	小テスト		
	中間・学期末試験	50%	演習内容の学びを基に、保育者としての知識・技術の習得に結びついている内容の記述と論述であること。記述に関しては、必要に応じた漢字と語彙を用いていること。
	発表内容(態度含む)		
	その他		
教科書と参考図書			
教科書：シードブック 保育内容「環境」 建帛社			
履修上の心得・ルール			
演習活動内容を重視するため、傍観者にならずに積極的に授業に参加し課題に取り組むことを期待する。			